

2022 年度 ラテン・アメリカ政経学会総会 議事要録

2022 年 11 月 13 日（日）13：30－14：30

会員総会議事に先立ち、規約に定められた定足数を充足していることを確認した。また、議長として咲川可央子会員、書記として子安昭子会員を選出した。

1. 理事長から資料 1 に基づき 2021 年度活動報告があり、承認した。
2. 幡谷理事（会計担当）から資料 2 に基づき 2021 年度会計報告および監事（藤井嘉祥会員）より会計監査報告があり、承認した。
3. 理事長から資料 3 に基づき 2022 年度事業計画について説明があり、原案通り承認した。
4. 幡谷理事（会計担当）から資料 4 に基づき 2022 年度予算案について説明があり、原案通り承認した。
5. 理事長から資料 5 に基づき在外会員の取り扱いについて現状説明および今後の対応について提案があり、在外会員を対象とした「休会」措置は 2022 年度末を以って廃止すること、それ以外の理由による休会措置については規約に盛り込む形で制度化していくことを承認した。なお、在外会員の取り扱いおよび休会制度に関する細部については、次期理事会の下で検討していくこととした。
6. 資料 6 に基づき、選挙で選出された 7 名の新理事（浜口伸明、舛方周一郎、近田亮平、坂口安紀、河合沙織、幡谷則子、笛田千容の各会員）から推薦があった 3 名（村上善道、浦部浩之、谷洋之の各会員）を理事に選出した。また新理事長に就任する浜口伸明会員から理事会の役割分担（とくに 2 つの副理事長のポストを置いたこと）について説明があった。
7. 次期監事として北野浩一会員と森口舞会員の 2 名を選出した。
8. 桑原理事（2022 年度編集幹事）が作成した資料 7 に基づき、清水理事（編集担当）から『ラテン・アメリカ論集』No.56 の構成について報告があった。
9. 清水理事（編集・ウェブサイト管理担当）から資料 8 に基づき『ラテン・アメリカ論集』の J-STAGE 掲載について報告があった。
10. 理事長から、昨年度総会以降 1 年間の入退会動向（新入会員 12 名、退会会員 12 名）について報告があった。2022 年 11 月 13 日現在の会員数は、162 名である。
11. 理事長から、2023 年度全国大会は東洋大学で開催する旨報告があり、大会実行委員長の久松佳彰会員から挨拶があった。また、全国大会のプログラムについては、大会実行委員会とは別に「大会プログラム委員会」を次期理事会の下で設置し、検討していくことも併せて報告された。

以上